

CONTENTS

▶ 研究委託校・実践校の紹介

▶ 夏季研修講座実施報告

研究委託校・実践校の紹介

安平町立追分小学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、「自ら考え、表現する子どもの育成」を研究主題とし、日々の授業改善に取り組んでいます。

「主体的・対話的で深い学び」の充実に向け、ねらい・ゴールを明確にした授業づくり、問題解決的な授業づくりの中で、自分の考えをもち、それを表現（アウトプット）できる力の育成を目指しています。

今年度は、ICTが児童のアウトプットの選択肢の1つとなるよう有効的な活用方法を研修するとともに、授業公開を行い、協議を重ねることで、全教員が共通した意識をもち研修に励んでいます。

自ら考え、表現する子どもの育成



4年 総合的な学習の時間

「安平川学習」
水質検査の結果から、グループとしての見解を話し合っているところ



5年 社会科

「日本の工業生産の今と未来」
Padletを使い、現状からどのようなことが考えられるか、意見交流をしているところ

むかわ町立鵜川中央小学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、自分に合った学び方を選択し、自ら学習することを通して、育成すべき資質・能力を身に付けることができる姿を「自走する子供」と捉え、研究主題を設定しました。特に、国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいます。

研修の重点として、一人一台端末でのロイロノートを積極的に活用し、単元や本時の学習に意欲をもたせる「見通し」や自分の進度に合った学びを進める「委ねる授業づくり」、学びを次時に繋げていく「振り返り」といった授業実践を積み重ねています。

自走する子供の育成

～見通し・振り返りを通した子供に委ねる授業づくり～



4年 国語科「ごんぎつね」

導入場面でロイロノートを活用し、あらすじを視覚的に説明しているところ



2年 国語科

「みきのたからもの」
児童が振り返りの場面でロイロノートを活用し、物語の好きな場面とその理由を記述しまとめているところ

むかわ町立鵜川中学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、3つの視点と内容や時間のまとまりを見通した単元のデザインを通した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善をテーマに、研修を実施しています。

- ① 主体的に学習に取り組むため、自身の学びの変容を自覚できる場面設定（見通し、振り返り）
- ② 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面設定（ねらいを明確に、個人思考の時間確保）

- ③ 学びの深まりをつくりだすための言語活動の場面設定（アウトプットする活動）

年間を通して、文系部会、理系部会、芸体系部会の3部会体制で公開授業を実施し、協議を通して研修を深めていきます。

主体的・対話的で深い学びを実現する生徒の育成

～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善を通して～



2年 家庭科「中学生に必要な栄養を満たす食事」

タブレットを活用して、不足している食品群を補うような1食分の献立を考えているところ



2年 家庭科「中学生に必要な栄養を満たす食事」

栄養教諭と連携した授業の様子

伊達市立大滝徳舜警学校

公開研究会 11月13日(木)

今年度は、自己調整型の学習について校内で共通理解を図ることを研修の出発点としました。児童生徒が自分に合った学びを見通し、振り返り、次に生かす力を育む授業づくりを目指しています。

少人数での単学級や複式学級といった本校の実態に応じて、指導案の改善や振り返りシートの充実を進め、教職員間で実践を交流しながら研修を深めています。

今後も児童の主体的な学びと挑戦する姿を引き出す授業改善に取り組んでいきます。

主体的に学び、挑戦する力を育む

～自立した学習者を育てる授業づくり～



9年生 理科「生物の成長と生殖」

自分に合った手段で課題に取り組んでいるところ

課題	学習内容
サメと魚の卵の観察は、どのような違いがあるのだろうか？	サメと魚の卵の観察は、卵の殻で何が覆われているのかを調べた。

ツール	学びの振り返り・次の学習の予定	学びの調整
聞いて... ノート	卵の観察の違いは、卵の大きさや殻の変化で、観察が行われているから変化が生まれたことがわかった。遺伝子は人間にも存在するので、植物との違いが気になる。	確認！

9年生 理科「生物の成長と生殖」

学習課題、学習内容、学びのツール、学びの振り返りを一括りにまとめたスプレッドシート

白老町立虎杖小学校

公開研究会 11月26日(水)

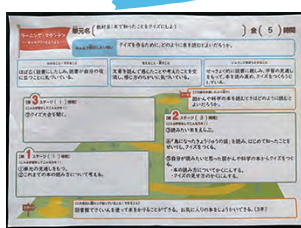
今年度は、「わかった・できたと感じ、考えを広げられる児童を目指して」という研究主題で、全教科を通して授業実践に取り組んでいます。

単元の学び全体を山登りに例え、子供たちが目指すゴールとプロセスを見える化した“ラーニング・マウンテン”を取り入れ、導入段階で学び全体の見通しをもたせ、目標の達成を目指して最後まで頑張る力を培えるようにしています。

さらに、スプレッドシートを活用し、授業を通して「なにがわかったのか・なにができたのか」などを記入することで、

わかった・できたと感じ、
考えを広げられる児童を目指して

～児童の実態に応じた学習指導の改善と工夫を通して～



3年 国語科「本で知ったことをクイズにしよう」
単元の学び全体を山登りに例え、子供たちが目指すゴールとプロセスを見える化したラーニング・マウンテン



4年 国語科「本のポップや帯を作ろう」
学びの振り返りをスプレッドシートに記述しているところ

自分の学びの振り返りを積み重ねて視覚化できるように取り組んでいるところです。

豊浦町立豊浦小学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、授業実践を積み重ねています。実現に向けて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童にどのように資質能力を身に付けさせるかに重きを置いて研修を進めています。

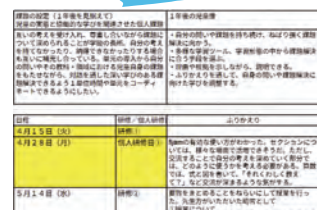
また、事後研の話し合いの足跡や教師一人一人の学びの蓄積を視覚化することで、グループや個人で学んだことを共有して、研修を深めています。

理由や根拠を示しながら、自分の考えや
思いを伝えることができる子の育成

～個別最適な学び・協働的な学びの
一体的な授業実践を通して～



6年 音楽科「音のスケッチ」じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう
個人の進め方に合わせて和音を作っているところ



研修ログを活用したグループ・個人の情報をまとめたスプレッドシート

夏季研修講座を開催しました

8月21日（木）、夏季研修講座を開催しました。今年度は、北海道教育大学札幌校で教育心理学や特別支援教育を専門にUDLに基づく授業改善や学習支援を研究されている 川俣 智路 先生をお招きして、「個別最適・協働的な学びの実現のための方法と実践」と題し、お話をいただきました。講座内容の一部についてご紹介します。

UDLとは？

UDL（ユニバーサルデザイン・フォー・ラーニング）は、「**学習がうまくいかないのは子供のせいではなく、カリキュラムや学習環境にあるバリアのせいかもしれない**」という授業づくりの考え方です。**教師の見方や考え方を変えることで、子供たちの可能性がぐっと広がります。**

3つの視点で環境を見直す

UDLでは、**学びを阻むバリア**を3つの側面からとらえます。

- 1、インプット（提示の工夫）
うまく聞けない、読めない子供に、**音声・図解・映像など多様な方法**を。
- 2、アウトプット（表現の工夫）
書くのが苦手な子供には、**話す・図で表す・デジタルで示すなどの多様な手段**を。
- 3、エンゲージメント（関わり方の工夫）
「簡単すぎて退屈」「難しすぎて意欲が出ない」子供に、**選択肢や挑戦の機会**を。

環境デザインの7つの要素

学習環境を見直してみませんか？見直すポイントは次の7つです。

- 学習のゴール（目的・意義）
- 教材
- 指導形態・指導方法
- 学習環境そのもの
- 学習活動
- 学習の体験
- 評価

これらの要素は、私たちが**私たち自身の裁量ですぐに変えることができる**ものです。学習環境を見直すことで子供たちの学びを阻むバリアを取り除いていく必要があります。

教師の役割

UDLでは、子供が**つまずいた時に助けるのではなく、最初から多様な選択肢を用意し、子供に選ばせることが大切です**。子供は「**自分でできた**」という手ごたえを得て、**学びに前向き**になっていきます。また、**選択肢を提供するだけでなく、子供の学びをモニターし、適切なフィードバックや支援を行うことが不可欠です**。教師のフィードバックや自らの振り返りを通して自身の学び方を改善し、最終的には**自律的な学習者へと成長**していきます。



胆振教育研究所のホームページから夏季研修講座のまとめを見ることができますので、是非ご利用ください。

胆振教育研究所では、先生方に役立つ研修を企画しています。次回の冬季研修講座では、1月7日（水）に、「一人一人の子供たちを主語にした授業づくり」を題材とした実践交流を予定しています。ぜひご参加ください。

